

14 特集 「目標、100kg」。生井澤 聡、魂の激釣!!
「激闘。目覚めよ、芦ノ湖べら達!!」

25 特集Ⅱ 最高峰のメーター&チョーチンが、野田幸手園で激突!!
「上村恭生vs元生貴男」

32 石井旭舟 **へらぶな浪漫街道**
 《第五十五回》山梨県・山中湖

38 小池忠教 **激釣の急所**
 《第七回》浅草へら鮒会 千代田湖例会

45 **パリバス・グランカップへらトーナメント全国大会** 筑波白水湖

48 **NEO-HERA Pro League 2007 第一戦** [羽生吉沼]

50 齊藤心也 **炎のチョーチン12番対決!!**
 《第8戦》vs糸井日出男 in 羽生吉沼

58,82 **〈新企画〉早川浩雄「鉄壁・早川スタイル」**
 《第1回》千代田湖のチョーチン両ダンゴ

60 **マルキューモニター懇親会** 椎の木湖

★AREA REPORT

61,66 西湖(山梨県)	本誌・伊藤洋一
62,68 桜ヶ池(富山県),浮州池(福岡県)	山本一朗,河口正伸
63,69 蝮池(愛知県)	後藤 誠
64,70,71 津風呂湖(奈良県)	前田誠志

134 **HERA-1GP 全国へらブナ釣り選手権大会決勝** 隠れ谷池

138 **杉山達也のSUPER SPLASH!**
 (ROUND.19) 爆釣ベレ底!! 「美底」を狙う、夏の爆釣法伝授!! へら学の森 泉園

143 中澤 岳 **フィールド真つ向勝負**
 《Vol.19》ミドルレンジペレ宙 in 谷和原大沼

148 田辺哲男 **MYへら道**
 《へら道その七》川の野べらを釣りたい! 相模川

152 稲毛利夫 **崖つぶち釣行!**
 《第7回》師匠、絶好調!! 山田沼(栃木県小山市)

156 吉川ひとみの**あっち こっち そっち♡ 修行編**
 《Vol.15》ひとピー、精進湖で地べらを連発!!

193 棚網 久の**我流**
 《第十七回》満水の亀山湖を狙う!!

200 岡田 清 **Deep Side Angle**
 《Vol.42》【日曜メーター攻略 in 清遊湖】

205 **釣り味**
 《第8回》備長木炭金網焼「ほるもん炭壺」の【とんちゃん盛り合わせ】

206 **釣果予想クイズ**

208 **フィッシングレディ**
 《今月のレディ》川田めぐみさん 金山湖へら鮒センター

釣り場割引 クーポン券

p.163~

野田幸手園 椎の木湖
 清遊湖 谷和原大沼
 上尾園 F.A吉羽園
 谷養魚場 将監
 柳生 F.P 筑波白水湖
 泉堰 逆井HC
 友部湯崎湖 三和新池
 狭山HC 川越FC
 芦田湖水光園
 鳥羽井沼 大上へら池
 霧の沼 小川つり堀園
 清川つくしFC
 千代田湖・舟宿 千和
 相模湖・釣舟 五宝亭
 相模湖・釣舟 天狗岩
 吉森HC
 甲南へらの池 当麻池
 水藻FC 朝日池
 釣り堀八十八
 精進湖・釣舟 金風荘
 西湖・釣舟 白根
 西湖・釣舟 丸美
 西湖・釣舟 青木ヶ原
 府中HC

76 **へら鮒釣り 超基本講座**
 《第29回》【チョーチン両ダンゴ編】実釣編

86 **ガチンコ道場**
 《第20回》寺崎浩一特集!!

92 **都祭義晃 カリスマ伝説2007**
 (Vol.20) ~「G杯争奪全日本へらブナ釣り選手権」鬼怒川大自然会場~

99 **江成公隆のトーナメント、復活への道。**
 《Vol.62》「たくさんつりたい」

106 **夢追釣人(ゆめおつもの) 天野正由**
 今月の夢・イチオシ釣り場への誘い 蓼科湖&白樺湖

110 **水辺のプラネタリウム 吉本亜士**
 《今月の星空》「金峰山」

114 **最狂へら戦士養成所“鮒の穴” 漢(カネ)タカハシ**
 《第五十四話》英語で釣ろう、へらフィッシング。フロート様はバイリンガル!?

119 **へら鮒を三枚に下ろす 西田美明**
 《第8回》「ハリを科学する!」

124 **水と戯れ、風と遊ぶ ホワイト**
 《第8回》「ぶんべつ」と「ぶんべつ」

126 **野田幸手園新聞**

161 **ワクワク管理釣り場情報**

170 **小売店情報**

★へら鮒BOX

175 里ちゃんの新米編集長雑記

176 情報発信基地

179 ボイス

187 コラム『日研だより』 日研広報部長・遠藤克己

188 コラム『上村流!』 上村恭生

189 コラム『紀州“想いの竹”のものがたり』 中塚伸行

190 プレゼント発表

191 広告索引

192 編集後記

STAFF

●発行人
根本百合子

●編集長
田中里史

●編集部
大場勝良
諸富一秋
伊藤小百合
伊藤洋一

●へら鮒NET
根本大作
高田 準

●企画
〈オフィス・えふ〉
藤原 肇

「竹とともに生きる。」、戸張 誠「関へら戦記2007」、北川穂積「西の交友録」は誌面の都合によりお休みさせていただきます。

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web運動企画！～いよいよ再発進！～ (URL) <http://hesar.yokohamaturumi.net>

「一歩進んで二歩下がる!?!」

〈Vol.62〉

「たくさんつりたい」



「G杯、撃沈しました♡」

「同じく…」 by TOMA

いきなり思い出話からはじまる今月の原稿…。
で、G杯鬼怒川大自然予選はどうなったんじゃい!!
…んで?
「じゃ、よろしく♡」ってアンタ!
今日は何日だと思っとるんじゃいヴォケ～!!!
…ハイ、最後に第二回ナリズ杯の告知もあります
ので、皆様お見逃しなく…

by 里ちゃん

Photo by KAGA & mimi. Many thanks!

多摩川およびそれと付随する河川敷内の小さな溜まり、そして等々力FCしか知らない僕のへら鮎釣りに、新しい1ページが加わることになった。しかしそれは、まさに全盛を迎えようとしていた管理釣り場ではなく、三島湖だった。その後も三島湖は月イチのペースで進み、いわゆる「大型管理釣り場」へ出かけたのは、ずいぶん後になってからだった。現在「トーナメント―復活への道。」なんて連載を持っている僕の過去としては、いささか不思議な気がする。

ロッチから出舟した僕は、夫婦に並んだ。一本しか持っていないので迷わず丈三を出し、Kさんやその仲間達を真似て竿いっぱいウキをセットした。トップシーズンということで両ダンゴ。見よう見まねで、はじめてのチヨーチン、というより宙釣り自体がはじめて

はじめての三島湖。

「江成君、すごい所があるんだよ。こんなローカルなところじゃなくってね」
三島湖へ出かけたのは、それからしばらくのことだった。

子供の頃からやってきたへら鮎釣り。中学生の頃はだいぶ減り、高校時代は完全に中断していたが、卒業後に再開。近所の多摩川に再び通い出すと、子供の頃の憧れだった地元の名手Kさんにもすぐに再会することが出来た。その人なつっこい笑顔に会うのは、ほぼ10年ぶり。いつもダントツの釣果を叩き出していたKさんは、僕のことを覚えていてくれた。

再会。

だったかも。1投目から仕掛けはグチャグチャ。トップを折るまでに10投も要らなかつた。幸い、プランコ付きではあつたがウキはたくさん持っていた。

何も分らない僕にも、早朝の三島は優しかった。マルキューのエサ袋の裏書き通りに作つた両ダンゴで、僕の丈三は快調に曲がつた。先輩達は10枚くらいのところ、朝の3時間で5枚も釣れたのだ。近所の多摩川では有り得ない釣果。大満足だった。

8時をまわると、ウキの動きは弱々しくなつた。マズメの終了である。僕も先輩方もなす術のないまま、時間だけが過ぎていった。これがローカル。トーナメント惨敗続きで言うのも何だが、現在の僕なら、もう少し何とかなつた自信はある。当時の僕のレベルで「朝の3時間のダンゴで5枚」は、実は「激活性だった」可能性があり、そこから流つたというより「活性が落ち着いた」と見れば、8時以降、全く手も足も出ないというのはどうかと思うのだ。

ついに正午になつた。オカメに換えたKさんの仲間が数枚追加した以外、誰も釣れていない。移動の提案が出た。最悪の時間帯の移動。その後、僕はアタリを求めて幾度となく移動を重ねたが、全く釣れないまま時間だけが経過した。今思えば動かない方がマシだったと思えるが、「飽きるといけないから」と、Kさんに勧められて持つて来ていたバス釣り道具一式は、活躍の場を与えられ喜んでいてに違いない。足下のジギングでイレバク。移動中のトローリングでも。三島ではまだまだオカッパリで攻めるバサーがメインの時代で、攻められていないバスは素直だった。

そろそろ帰ろうかとKさんが提案した。ちょうどその時、ある釣り人がオケを二つ載せて漕いできた。なんだか必死に漕いでいるのが遠目にも分かつたが、例会や釣り会に全く興

味がなかつた当時は、例会終了時刻が迫っているのだからとは思わなかつた。そんな状況下にあつてもその釣り人は、Kさんの仲間が尋ねた釣果に明るく大きな声でこう答えた。

「150枚くらいかなあ」

僕はその数字に愕然とした。まさにケタ違いである。ここで僕は「腕の差」なんて全く考えもしなかつた。釣りは「1にポイント、2にポイント」である。さっそく聞き出し、最後の移動を開始した。



その釣り人は「夢の島」と言った。何も分らない僕にとつて、なんとも素敵な響きだった。しかし、夢の島も広い。「夢の島の何処で何をやってたのか」が全く分からないそんな情報では動くに動けないのだが、おそらく当時の先輩方もそんなことは全く考えていなかったのではないかと思う。やがてポイントに近づいた。

「ここが夢…の島?」。正直、僕はそう思ったが、入り口にある教科書通りのいかにも釣れそうな「クスレオタ」に吸い寄せられた。舟を着け、一本しかない丈三を出す。ウキ合わせも済んでいるし、乾き切つたエサも大量に残っていた。

1投目。経時変化で締め切り切つたダンゴが、初心者にも容易にナジミ幅を出させる。トップ一節残しまでナジミ切つたところで、打ち返す苦もなくジツと待つ僕の前で、それは起きた。多摩川とは透明度が違うため、ウキが水中深く消えていくのが確認出来た…消し込みだ! 数時間ぶりに見たアタリに、ポンヤリして全く手が出なかつたが、向こうアワセで羊ツン。羊を持っていかれなかつたのは、年季の入つたゴム製の羊リングのおかげであ

る。今の僕なら、このシチュエーションでの1投目からのアタリはブルーギルに違いないと感じるだろうが、この日は何とへらだつた。その後アタリは続き、日没寸前までに10枚近い釣果を得た。夢の島へ移動してから、竿を出さずに僕の釣りをじつと見守つてくれたKさんと、こんな会話をしたことを覚えてい

ている。

K「場所の差つてあるんだね、やっぱり。タマズメっていうのもあるかもしれないけど、明らかに魚の濃さが違うよね。でも、腕も大きいな。さっきの人がここで竿を出していかどうかは分からないけれど、オレがやつてもここで150枚は無理だもんな。本格的に始めたばかりの江成君だつて感じるでしょ? 釣り切れてないつてさ。ウキはナジまなくなつちやつたし、スレも多い。魚の量に圧倒されちゃつてるもんね。いればいたで難しいのがこの釣りなんだよ。」

江「なるほど。Kさんでも難しいことなんであるんですね?」

K「オレはただのローカル釣り師だよ(笑)。だから管理釣り場を敬遠しちゃう傾向にあるんだね」

江「管理釣り場つていうのはもの凄く濃いんですか?」

K「濃いなんてもんじゃないねえ。こことは比べ物にならないよ。江成君は夢中で気づいてないと思うけど、ここへ来てからへらを釣っているのは江成君だけで、周りの連中はブルーギルばかりだよ。こんなにすぐそばなのにね。でも管理釣り場じゃそんな場所ムラは有り得ない。過剰と言つていいくらい沢山いるよ。上手くなりたかつたら、管理釣り場にも行かなきゃダメだろうね」

江「ふん…」

それからかなりの時間が経ち、「あの時の150枚の釣り人」は、どうやら小池忠教氏だ

つたらしいという話が出た。真偽のほどは分からない。僕は小池氏の名前も知らなかつたが、たまに買う「へら鮎」にその名を見つけた。それまで例会や競技にあまり関心がなかつた僕だが、「たくさんつりたい」という気持ちは否定しようがなく、氏の連載に没頭していった。古本屋でバックナンバーを買って漁つたのはこの頃である。

日頃からブレンドパターン偏重主義に嫌悪感をあらわにする僕だが、100%否定しているつもりではない。底辺拡大を目指す時、とつかりとして分かりやすい指標は必要であり、その功績は計り知れない。ただ、その先で無理があると思うのだ。

「粒子を潰さないエサ」は、ダンゴでもバラケでも現在の主流であり、「作り直した方が早い」ケースが多いのは否めない事実だ。しかし微調整は必ず要るし、作り直さなくとも微調整で済むケースだつてある筈だ。なんでもかんでもブレンドパターンに頼るのはメーカーの思つっぽい気がするし、思考を妨げ真の上達に結びつかないという気がする。「市販されているエサに、へらが食わないエサはない。釣れないのと食わないのは別」これが僕の持論だ。

小池氏の連載を真剣に読み、ホームグラウンドを多摩川から魚影の濃い「多摩川HC」に変えていた僕は、やがて独学で1日100枚の壁を突破する。そしてまた新たな出会いがあり、ゴールデンクラブ入会へと突き進んでいった。「等々力一派」と括られがちだし、僕自身も否定はしないが、僕が等々力FCをホームとしたのはゴールデン以降のことで、習得に圧倒的な魚影が必要なテーマだと判断すれば、多摩川HCにも足を運んだ。

地元の大将として天狗になることもなく、僕に管理釣り場での釣りも必要だと説いたKさんとは、その後一度しか会つていない。



「トーナメントのキモはセット」。自らにそう言い聞かせてダンゴや大好きな底釣りは封印してきた。しかし、里ちんの一言。

「アニキ、鬼怒川だけは底釣りの封印解きましようよ！ 間違いないくアニキの底釣りなら予選通りですって。昨年の予選では間違いないくそうだと感じました。滅多にないチャンスですってば。楽勝ですよ！」

僕は揺れた。バリバス予選をコケた僕は、何故何でもG杯は通りたい。しかし、セットで通過してこそ意味があるのではないか…。

「じゃあアニキ、言わせてもらいますけど、底釣りで通っても意味がないってことは、裏を返せば底釣りなら通る自信はあるってことですよね？ なら、一回通っちゃって楽になりましょうよ！ 何でもって新連載へゴ—！って感じイ！」

この男、どこまでもお気楽である。締め切り間際のトランス状態の中では、連載のテーマもへったくれもない。…でも、本当にそうなのか？ 底釣りなら通る自信が僕にはあるのか？

「底釣りでコケちゃったら、もうどうしようもないじゃん。何も残らないぜ！」

「それが自信なんじゃないですか？ 自ら底釣りを最後の切り札として認めているってことですよ。伝家の宝刀、抜いちゃって抜いちゃって〜。凧刀抜刀！ 座ぶとん一枚〜！」

「…いやいや、伝家の宝刀だなんて思っていないよ。オレは北城理論を紹介したに過ぎないんだから。ただ、底釣りならイケるかもっていう色気を出してね、それでズッコケたらカッコ悪いよねってことでさ。だったらセットで潔くコケたいかなって…！」



一回戦敗退組で反省釣り。左隣にロバート氏、右隣に岡田みっちゃん。そして、アニキのノウガキに付き合ってくれているのは、クリスタル☆トマ

「それはアニキの逃げです。だいたい底釣りが本命って皆が認めている状況なんですから、何の問題もないじゃないですか。夢見て一発っというワケじゃあないんです。だいたい、アニキはもうすでにじゅうぶんカッコ悪いですから、心配無用ですよ！」

「わかったよ！ 底釣りやりゃあいいんだろ？」

大義名分はもらった。一度も行ったことがない釣り場だが、何とかなるかもしれない。…そんな僕の妄想は、厳しい現実の前に消えた。

一回戦落ち。

「たった三分の—しか落ちないのに、残れないんだもんね〜」

そう言うロバート改めエロバート氏と竿を並べながら、二回戦を眺めた。当日の釣況は、「底釣り圧倒的有利」ではなかったという見解で一致はしたが、それは結果論に過ぎない。落っこった者同士なぐさめあっても何も始まらないのだ。

「でも、連載が始まってから仲間がたくさん増えて嬉しいんですよ」

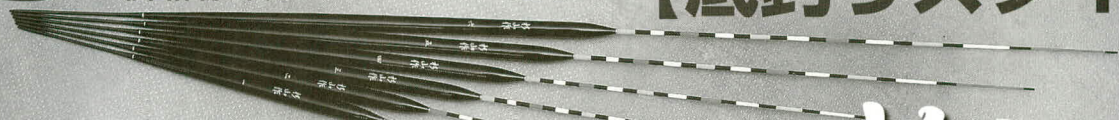
半分本気、半分負け惜しみである。

…僕は、今でも「たくさんつりたい」のだ。

新作!!

慎重にテストを繰り返した底釣り専用タイプ。杉山作初の美しいブラックボディで登場!

【底釣りスタイル】



- 繊細な「底」を完全表現する専用タイプ。
- ボディは羽根2枚合わせ5.5mm径。精神な極薄ブラック塗装仕上げを採用
 - ダイン製ホウトトップ（内径1mmパイプ）採用。軽量かつ視認性大幅UP!
 - サイズ：一番（T10cm B9cm カーボン足4.3cm）～六番（T17.5cm B16.5cm カーボン足4.7cm）
 - ワンサイズごとにバランスを突き詰めた設計で、スムーズなナジミと理想的な返しを実現!
 - 定価1本7,350円（税込）

杉山作

取り扱い店 <五十音順>

- 埼玉・越谷 かわせみ (☎048-969-5067) 茨城・下妻 こやの釣具 (☎0296-44-1619) 東京・渋谷 サンスイ川釣り館 (☎03-3499-5025)
 埼玉・入間 への三水 (☎042-964-2093) 栃木・益子 フィッシングハウスほその (☎0285-72-2215) 神奈川・川崎 鮎仙人 (☎044-287-7470)
 東京・吉祥寺 丸勝 (☎0422-22-8923) 東京・青梅 吉川釣具店 (☎0428-22-2467)

寄せて、上げる♡

6月13日、椎の木湖。ナリーズ例会。
当初の予定をぶっちぎり、いつもいつも僕の都合に合わせて開催される例会。メンバーに甘え過ぎであるが、いましばらく勘弁して頂きたい。ド平日であり、もうダンゴを追っけていてもおもしろくないシーズンだが、ナリーズのテーマはセット。僕は強烈なパワー系をイメージして参加した。

先月号で「パワー系とは自分が打てるマックスの寄せで釣る釣りであり、タナの二局分がキモに違いない」と書いた。また、「完全に二局分化出来れば追わせる必要はなく、短いハリスで勝負になる」とも書いた。僕はこれについて脱稿後もずっと考えていた。エサだけが二局分化に必要な要素だというのは少々乱暴な結論だと思っていたからだ。これは別にエサメーカーから圧力がかったわけではない（何通かの中傷メールは頂いたが）。

エサだけで綺麗に二局分化させるのは、かなり難しい。二局分化というよりも、目的より上のタナに上げ切った時、ガサの傘下の空白になったスペース（目的のタナ）に、別の群れが入ってくるという図式の方が分かりやすいし、パワー系が成立する条件も見えてくる。

まず、絶対的なへらの量だ。薄い釣り場で寄せて釣る釣りではなく、いくらでもへらがある釣り場で、寄せ切って、上げ切って、さらにその先に出来るタナで釣る釣りなのだから、半端な魚影では成立しない。

次に水深。空白になったスペースに別の群れを呼び込むには、横や沖などの水平方向から寄せるというより、下から寄せる（上げる）という方がイメージしやすい。となると、水

深がたっぷりあって、もともと別の群れの層が深いタナに存在する釣り場の方が、しっかりとくる。

ここで冷静になってみると、今書いたことはいわゆる「チョーチン釣り」のイメージそのものだ。

水面に湧くへらは全く相手にしないで打ち切り、最後は地合が出来上がれば、めでたしめでたし。そう、深宙もいつも決まるとは限らない。しかし、コケる可能性が極めて低いのが、短竿チョーチンである。目的のタナまでガサという日もあるだろうが、中・長尺のように「空白は作られたけれど、入ってくるへらもない」というリスクは低い。

最近では、「トーナメントの攻め手として外せないほどクロスアップされている」という記事をよく見かけるが、浮き棧橋というストラクチャーによって形成されるターゲットゾーンの特異性は、はるか以前から認識されていたことだ。薄い釣り場でも、沖目より棧橋直下の方が濃い傾向が強い。大昔から短竿チョーチンはアリだ。『何を今さら』と思っているのは僕だけではない。

短竿チョーチンには、グレーゾーンを切り捨てた潔さがある。

メーターには、どうしても「イタダキ系」のあたりが混ざり、グレーな感じが拭えない。パワー系ならなおさらだ。

チョーチンでもそういうあたりが出る可能性は否定出来ないが、ウキが立ち始めた段階でメーターよりは下にオモリが入っているだろうから、まあいいかという気分にはなる。僕的には、追わせる必要がなく、下バリをガサに捕まらせずにタナまで入れ、大エサを引っぱりおろす必要があるのなら、釣りの回転も早くなるのでつもなくデカイウキでいいじゃないかと思った。して、それを実行に移すのがナリーズである。

ボディ15センチ。

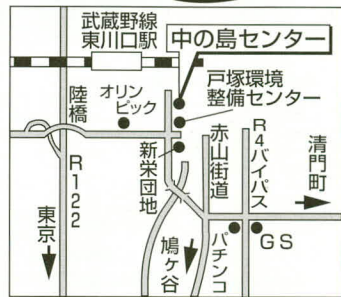
ゴールデンに入会したところ、メーター規定の池で行われる例会では、「ボディ15cm以上」という会則があった。後に足長ウキが流行ると、「足は4cm以内」と制限されたから、身の部分で11cm以上という今では考えられないような縛りだった。ところがこれでも結構釣れた。真冬には拷問のようなルールでも、どここの釣り場でもへらが湧き上がるほど濃かった時代では、トップシーズンには結構どころか、むしろ地合の安定に役立った。椎の木湖へ向かう途中は、そんなことを思い出しながらのハンドルだった。

到着して間もなく、ゴールデンの佐藤徳通会長から電話があった。僕の携帯に電話を頂くのは、多分今回がはじめて。その証拠に、僕の携帯の電話帳には佐藤会長の携帯番号は登録されていなかった。そんなことより、会長とお話するのは何年ぶりのことなのか。あまりのタイミングに驚き、無意識に正座して電話をする僕に、メンバーのみんなは不思議そうな視線を投げてきた。それから僕は、しばらく釣りに集中出来なかった…。

仕掛けを作り、ボディ15cm（足4カヤ11）の自作ウキをメーターにセット。さんざんイメージしてきておいて、チョーチンではないのが僕らしい。いや、実はデカウキの効果により実感するためのアンバランスさを追求したかったためののだ。

自分で思う「超デカイバラケ」を握るようにエサ付けし、ドボンと振り込むこと2時間。全く思うような展開にならない。ここで僕は予定通りチョーチンに変更したが、パッとしないまま時間が過ぎていった。テーマがどうでもよくなった僕は、たたくさんつりたい一心

赤いリボン賞
2,500円



営業時間 (10月~3月) 平日 午前7時~午後4時 日・祝日 午前6時30分~午後4時
(4月~9月) 平日 午前6時30分~午後4時30分 日・祝日 午前6時~午後4時30分
定休日 毎週火曜日(祭日の場合 翌日休業) ※第4火曜日と水曜日は連休
料金 1日/2,500円 半日/2,000円
規定 自由釣り池(2面)は、タナはウキ止めからオモリまで1m以上 **使用竿** 竿8~15尺 **水深** 3.5m
※ジャンボ室内鯉釣り、金魚釣りも楽しめます。

有限会社 堀 中の島センター

埼玉県川口市藤兵衛新田254 ☎048-295-5194 (夜間296-7654)

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

- 1.ぐりへの鮎会
- 2.ぐりへの鮎会
- 3.ぐりへら鮎会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに!

取扱店: 柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の路入れに

転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店:

柴舟(東京都江戸川区)

03-3613-2727

佐伯釣具店(神奈川県川崎市)

044-911-3722

SANSUI川づり館(東京都渋谷区)

03-3499-5025

フィッシング中原(神奈川県川崎市)

044-711-8266

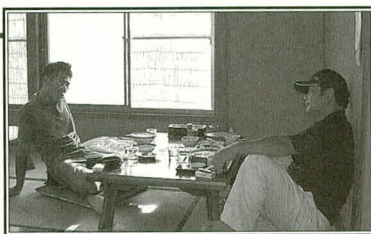
鮎仙人(神奈川県川崎市)

044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとリエぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com

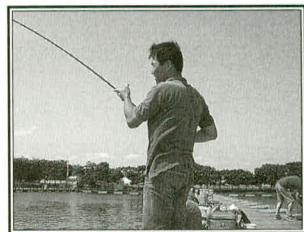


〈初夏の憂鬱〉



〈現実とわたし〉

～ナリーズ例会にて～



〈逃避〉

で両ダンゴへ変更したが、またしてもバツとしなかった。冷静に考えれば、ダンゴで好転するとは思えない状況で、そのチョイス。最後は底釣りでのジ・エンド。全く脈絡のない、初心者のような行動。僕はいま、泥沼にハマっている。

帰りの食事で、平山氏からバラケの小ささを指摘された。自分としては、これ以上ないくらいにデカバラケを打っているつもりだったが、まだまだ小さ過ぎたようだ。ハリ切れを考えてあまり大きな上バリをセットしなかった僕。結果的に、エサ付け出来るバラケの大きさに制限を与えてしまった。さらに、ハリ切れを考えてチョイスした上バリに、あまりにも高い位置で抜けないよう、わざわざしっかりとエサ付けしていたことも思い出した。水面で抜けてしまってもよかったのではないか? それでも下バリのクワセだけはグレーゾーンを通過させるためのデカウキだった善だ。しかも、思いのほかタナまで持ってしまった投も多かったと思いついた。結果的に、タナまで持つ(上のへらを追わせる)バラケを、デカウキを用いることで追えないスピードでタナに入れていたことになる。全く何をやっていったんだか…。ん? 水面で全部

抜けてもいいんじゃないのか? デカイバラケを引っぱり降ろす必要が「なく」、イタダキアタリに対する他人の目を全く気にしない覚悟なら、超小ウキでのパワー系は、やはり「アリ」だ。下バリがナジミ切ったからの二層目で釣るもよし、真上のへらに食われるもよし…。僕には耐えられないや…。

今回も反省材料はたくさん貰え、全くの無駄になった一日ではないのだけれど、たくさんつりたい気持ちは抑え切れない。平山幹事長と僕の釣果は三倍の差がついた。実験含みだったとはいえ、僕だってやっぱりつりたい。楽しい筈の趣味でストレスが貯まるとはおかしな話だが…。

第二回ナリーズ杯。

第二回ナリーズ杯 ～1位もビリもただの人!?～ 参加者緊急募集!!

- 日時 平成19年7月16日(祝)
- 会場 千葉県・富里乃堰
- 受付開始 5:00～
- 競技 6:30～15:30
- 参加費 3,000円(釣り場代込み。当日、受付にて)
- 賞品 優勝、飛び賞、抽選他。何でもいので、何か1品ずつお持ちください!

●申し込み方法 官製はがきに、住所、氏名、性別、連絡先(自宅&携帯電話)を明記の上、〒120-0005 東京都足立区綾瀬7-13-10 へら鮎社「第二回ナリーズ杯参加」係まで、7月10日必着でお申し込みください。参加確定者には当日の案内を送付いたします。

もなく失礼で行き当たりばつたりな企画です。でも平山幹事長によれば、「そこらへんの通すべきスジは通した」とのことなので、100パーセント丸投げで安心して切っている僕はお気楽者でございます。さて、詳細は里ちゃんに任せよう。じゃ、よろしく♡

へら鮒釣りの楽しさを追究し続ける...



へら鮒

九隻
信

Monthly fishing magazine herabuna

No.500
Aug.2007

8

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本郵政株式会社 郵便番号 100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 日本郵政株式会社

通算500号突破。



昭和41年5月4日第3種郵便物認可
 第42巻第8号(毎月1回1日発行)
 平成19年8月1日発行

ペレ道の釣果へ!!!

集魚力が強く、良型が揃いやすい、ペレット。
 このエサを使いこなすことが、盛期の釣りの、大きな武器となります。
 以前は扱いが難しく、上級者向けともいわれたペレットですが、
 「ペレ道」「白べら」のコンビなら、
 ペレットの爆発力はそのままだに、扱いやすさも抜群です。

ペレットと相性抜群の白い魅エサ。
 集魚材の入っていない、純粋な白い魅エサ。軽くバラけるから、ペレット系のエサとのブレンドに効果抜群。ペレットのネバリや経時変化を抑えて、練っても練っても、バラケ性を失いません。ネバりの出たエサの手直しにもおススメ。
 ● 白べら 330g スライダーチャック袋



ペレット系独自の圧倒的な集魚力、まとまりのよさ、重さを備え、へらが食いやすい状態で、しつかりハリに残ります。魚をウワズらせず、タナをつくりながら強力に寄せ、いいアタリで釣れるうえ、良型が揃う可能性も高まります。
 ● ペレ道(ペレド) 600g スライダーチャック袋

ペレット系宙釣りダンゴエサの決定版。



丸マルキュー株式会社
 〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909
 四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909
 ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら
 iモード・ホームページ
<http://www.marukyu.com/i>

マルキューホームページ内の「へら鮎天国」では、新鮮な釣果情報を掲載中。あなたのお気に入りの釣り場の情報が、見つかるかも。
<http://www.marukyu.com/> マルキューへら鮎メールマガジンも、お申込はこちらから。

釣れるヒント満載!!
へら鮎天国

定価 1000円 本体九五二円

